

日本製トラクターを世界の国々へ輸出

農業用中古トラクター輸出 須磨産業

取締役 菊谷 勇氏

専務 菊谷 守氏

訪問者 島かおり

性能確かな日本製農業用トラクター

島 すごく数のトラクターですね。一体どれくらいあるのですか。

菊谷 こことすぐ近くの、農業公園に作業場があるのですが、二つを合わせて千七百台から千八百台あります。

島 皆、中古品ですか。

菊谷 はい、そうです。

島 どういったところから、中古品がこちらに入ってくるのですか。

菊谷 ヤンマーやクボタ、イセキといったメーカーさんから始め、農協さんや経済連から仕入れていきます。

島 まとめて入ってくるのですか。

菊谷 ええ。たとえば三百台出すとしますと、また三百台はすぐに集まります。

島 いかにも中古品がたくさん出回るかということですね。

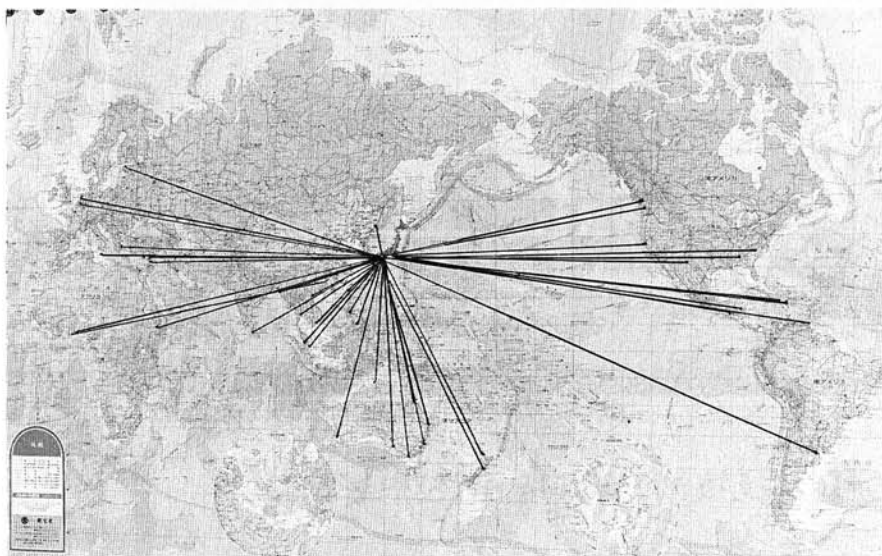
菊谷 集荷能力は充分あります。いわば石炭のようなものなのです。

島 掘れば出てくるのですか(笑)。

菊谷 はい(笑)。農家の倉庫に眠っている



輸出を待つ同社所有の農業用中古トラクター



地図が示すように世界各地に輸出されている

日本製品の品質の良さは今さら申すまでもありませんが、農業用トラクターに関しては、例外ではありません。ある国の新品よりも性能がいいと言われる日本製の中古トラクター。そこに着眼し、海外に輸出するというユニークな仕事を十年前に始めたのは、兵庫県三木市の農業用中古トラクター輸出「須磨産業」です。常に二千台近い商品を確保され、順調に業績を伸ばしておられる同社をお訪ねして、取締役の菊谷勇氏にお話を伺いました。

るものはまだまだたくさんありますから、常にこれくらいの数はストックできます。

島 まさにそれを掘り起こすのですか。そして、この中古品をこちらでメンテナンスを

して海外に売るわけですね。

菊谷 修理はする時としない時があります。エンジンを始動させると、そのトラクターの現状が手に取る様に分ります。その結果、注文に応じ振り分けます。

島 中古とは言え、充分使用できるものが多いのですか。

菊谷 はい。日本製は性能がいいです。ここに来るものでも、あと十年は使えるものがほとんどです。特に日本では一年に一度しか使わないことが多いものですから、それだけ耐用年数は伸びます。発展途上の新品より、日本の中古のほうが良いと言われているくらいですからね。

島 なるほど、優秀な日本製品ゆえに、成り立つご商売なのですね。輸出先は主にどういった国ですか。

菊谷 アメリカ、オーストラリアや中近東、アフリカです。

島 向こうでも、やはり田んぼや畑で使うのでしょうか。

菊谷 国によって違うようですが、米作りに使う場合はもちろん、後ろに箱をつけて、リヤカーやタクシーとして使うケースもあります。

島 お国柄の違いというのでしょうか。アイデアですね。

菊谷 リース業をする人もいますよ。二毛作、三毛作の国では一年中動いていますから、いい商売になるではありませんか。

合理的な考え方に合う中古品

島 こちらを創業されて、どれくらいになられるのですか。

菊谷 父が昭和四十九年に始めましたから、二十年になります。

島 お父様が専務でいらっしゃるのですか。あなたはこれお仕事に携われて、どれくらいですか。

菊谷 私は十五年です。

島 お父様のお仕事をずっと見てこられたのですか。仕事のノウハウはしっかりご指導を受けられましたか。

菊谷 いいえ。見て覚えたようなものです。島 メカにもお強いのですか。

菊谷 父は元々船舶エンジンを扱っていましたから詳しいですが、私はほとんど分かりません。

島 言葉はいかがですか。今日も外国の方が来られていますか。

菊谷 これもほとんど分からないです(笑)。島 通訳の方がおられるのですか。

菊谷 いいえ。身振り手振りで何とか通じますよ。それと電卓一つあれば、商談はできます(笑)。

島 要は数字ですね(笑)。でも外国の方となると、言葉の違いはもちろん考え方の違いが大きいですよ。そのあたりのご苦労はありませんか。

菊谷 慣れるまでは、大変でした。

島 日本人は買いに来ないのですか。

菊谷 ほとんどないです。外国の方のほう

がこういう中古に対して、合理的ですね。

島 車でも外国ならボコボコでも平気ですが、日本人はピカピカでないと気が済まないところがありますね。

菊谷 はい。それと日本では隣が新品を買えば、自分も新しいものを買うといった気風が強いんです。ここに来る外国の方を見ていると、そういうところがフランクで合理的だと思います。

島 そういった外国の方への売り込みはどうやってされているのですか。

菊谷 ジェトロやそのほか貿易関係の方に話を持って行きます。それと農業関係の方がたくさん日本に来られますからね。

今だから成り立つ仕事

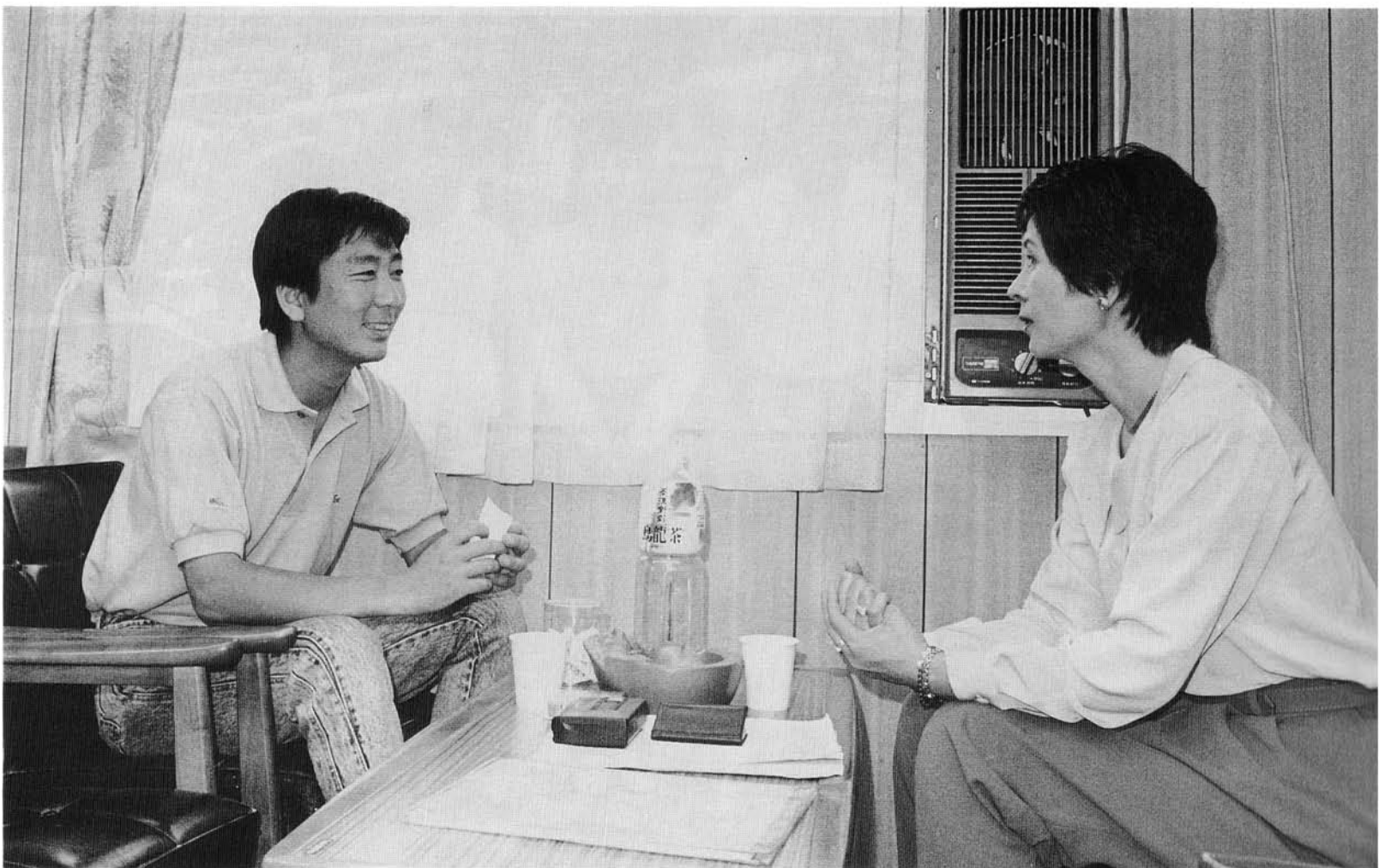
島 お値段は、新品からどれくらい割引されているのですか。

菊谷 新品の十分の一くらいになります。島 トラクターのお値段を私は分からないのですが、新品でどれくらいするものなのですか。

菊谷 百万円のものもあれば、三百万円以上のもありますし、いろいろです。

島 それの十分の一の価格で、まだまだ使える製品を売るので、相手の方も喜ばれるでしょうね。でも、いいところに目をつけられましたね。お父様がこのお仕事を始められたのは、何かきっかけがあったのでしょうか。

菊谷 父は常々まだ使えるトラクターをスクラップにするのは惜しいと考えていたそうです。でも、毎日メーカーではどんな製品を作り出しています。修理をして、本当に壊れるまで使うと、メーカーの商品が余って、結局生産が滞ります。そこで、日本は新品を使用し中古品は輸出して流れをよくしようと



対談中の菊谷勇取締役

